

Don't feel. Think.

どうも、前田です。

すでに今年が半分近く終わったなんて信じがたいですね。ボクは3月の出版以来、地味にプロモーション活動をしてきましたが、7月からの半年間は、もっと地味に活動していきます。今から、残り半年でやっていく遠隔講座の紹介をさせていただきます。

講座名は **Article Master Class (AMC)** で、「記事」に特化する英語リーディング講座です。会場に足を運ぶスタイルではなく、自宅やカフェなど好きな場所でリモート受講できます。今から、講座の内容を明らかにしつつ、「記事対策」もお伝えします。興味があれば読み進めてください。

「Article が苦手です」

そんな声を何度も聞いてきました。TOEIC のパート7には記事が必ず出題され、「受験者が嫌いな文書1位」という地位を不動のものにしています。実際、「記事は理解しにくい」とか「内容が頭に入ってこない」といった声をよく耳にします。そういうことを言う人は、試験中に実行できる解決策を求める傾向が強いのですが、大切なのは日頃の練習であり、試験中に飲んで試験中に効く薬は残念ながら存在しません。(もしあるなら、とっくに記事は1位から陥落しているはず)

もっと残念なのは、「日頃の練習」をしている人が少ないことです。苦手だから、練習しない。練習しないから、苦手なまま。そんなことでは、記事を克服する日は来ないでしょう。

記事は基本的に「事実の伝達」が中心ですが、試験に出る記事は架空の企業や人物ばかりなので、内容に関心を持ってないかもしれません。関心がない記事を読むと、普通、脳内の情報処理に負荷がかかります。これは日本語でもきっと同じです。

「どんな記事にも興味を持つ」という対策が可能なら話は早いですが、そんなのは多くの人には非現実的です。今から、ボクが考えた現実的で効果的な対策法を5つ書くので、記事を得意にしたければ、1つでも2つでもいいので、今日から実践してください。

記事対策1：日常的に記事を読む

重要度 No.1 です。あることに上達したければ、それを実際にやる必要があるという単純な話で、英語学習に限らず、スポーツ、音楽、料理など、あらゆることに当てはまります。

思い出してください。過去1年の中で、英語の記事を読んだ時間が最も長い日はいつですか？

もしかして、試験当日ですか。試験当日は10分程度しか記事を読まないのに、それを超える日がないのは問題です。ただ、不得意なことを、練習せずに試験本番でやって失敗し、「記事が苦手」と思う必要はありません。苦手かどうかは、練習してから判断するべきですから。ぜひ、日常的に

記事を読んでください。英字新聞やネットニュースの記事など、素材は簡単に見つかります。英語がきつければ、先に日本語で読み、同じ内容を英語で読むのがお勧めです。

さて、ここまで読んで「はい、了解～」と納得して記事を読み始める人はほぼゼロでしょう。では、2つ目に進みましょう。

記事対策2：TOEICらしさの高い記事を読む

「日常的に読めと言われて、それができるならやります。ただ、TOEICに時事問題は出ないので、ヤル気が出ない……」と思うなら、試験に出る内容に絞りましょう。それが試験対策として有効ですし、語彙対策にもなりますから。で、試験に出る記事とは、以下の6つです。

1. 企業や店の活動
2. 人物のユニークなキャリア
3. 専門家による助言
4. 製品や店のレビュー
5. 地元のイベント
6. 求人

「あるある」と思ったあなたはTOEIC度が高めです。通常、英字新聞には、政治、金融、犯罪、災害など様々な内容が詰まっていますが、試験対策としては不要不急なので自粛してOKです。

(今回の講座が提供する記事は全部この6つに含まれます)

記事対策3：読解力を試す設問を解く

読む練習を十分に積めば読解力が伸びるので、「解く練習」は必須ではありません。ですが、「解く」がなければ、読みが甘くなる人がいます。従って、「解く」を加えることで、きちんと読む確率が上がるなら、それに越したことはありません。ただし、設問には2種類あるので注意が必要です。

2種類とは、検索力を試すものと読解力を試すもので、後者を中心に練習することを推奨します。そして、練習の時は、消去法に頼らないことが死ぬほど大切です。消去法は本番でやむを得ず使うものであり、練習時には有害ですから。練習時は「これは正解。ここにこう書かれているから。こっちは不正解。この部分が間違っているから」などと、セルフ解説すると効果的です。

読解力を試す設問の例は「選択肢照合型」「文脈型」「情報分散型」「位置選択問題」です。講座の教材には、意図的にこれらを多く含めました。さらに、後でロスが述べるように、全記事に「特別な設問」も入れてあります。

記事対策4：記事の書き方を知る

意外かもしれませんが、これは確実に有効です。手紙には手紙の、広告には広告の、通知には通知の書き方があるように、記事には記事の書き方があります。記事の書き方を学ぶことは、読み方を学ぶことでもあるので、目に飛び込んでくる情報を処理しやすくなります。記事の書き方は、インターネットで簡単に見つかるはずなので、興味があれば英語で検索して読んでみてください。

講座では、書き手が何を考え、どんな工夫をしながら書いているかを学ぶ機会を用意してあります。さらに、その学びを脳にインストールする訓練もあります。本物っぽい記事を使う、ユニークな訓練により、パート7はもちろん、パート6の「文選択問題」にも強くなります。

記事対策 5 : 論理を学ぶ

先ほど、書き方を学べば読み方も学べると言いましたが、さすがに「設問の解き方」までは学べません。そこに論理の出番があります。論理を学ぶと設問がかなり解きやすくなるからです。特に、複数のヒントを根拠に解く設問は論理的思考を求める傾向が強いため、効果大です。論理とは決して複雑なものではなく、基本を学んで練習すれば誰でも習得できます。その「基本」には2種類あり、1つは「文と文の関係」、もう1つは「推論法」です。いずれも文書を理解し、設問を解くのに効果的です。前者は「同格・対比・因果」などを意味します。後者を少し詳しく説明します。

ある情報から、別の情報を推論するメソッドは複数あります。その中で、TOEIC 受験者にとって有益なのは **deductive inference** (演繹的推論) です。演繹という字は高度っぽいですが、実際は簡単。例えば、「8月中に入会すると2割引き」という前提の下で、「トムは8月10日に入会した」という事実があるとします。この場合、「彼は2割引きをゲットした」と推測できます。「あるある」と思ったあなたは TOEIC 度が高めです(2回目)。この推論法を演繹と呼びます。別角度から言えば、**What is suggested about XXX?** というタイプの設問が苦手なら、演繹に弱いと考えて(だいたい)間違いありません。大きい声では言えないので小さい声で言いますと、ETS はパート7で演繹法を多用しています。過去10年近く、ボクはそういう点を確認しながら問題分析をしてきたので自信を持ってそう言えます。

今回の講座では、「文と文の関係」と「推論法」を扱います。英語の授業の中で論理も教える講師はちらほらいるでしょうが、TOEIC 対策と論理を合体させて教えている人は、たぶん他にいません。それくらいレアなので、興味があればこの機会に学んでみてはいかがでしょうか。

以上、「記事対策」を5つ紹介しました。下に再掲載します。

1. 日常的に記事を読む
2. TOEIC らしさの高い記事を読む
3. 読解力を試す設問を解く
4. 記事の書き方を知る
5. 論理を学ぶ

これらを全て満たすよう講座を設計しました。記事に特化し、記事ばかり読む体験を積むことで、苦手意識という名の壁を壊し、ブレイクスルーを体験していただきたいと願っています。

上の5つを見れば分かると思いますが、「ちゃんと読む」とか「しっかり考える」ことを重視しています。ですから、「何となく(B)でいいや」とか「フィーリングで読もう」みたいな姿勢をヨシとしません。このような想いを込めたメッセージが、一番上の

Don't feel. Think.

なのです。(ブルース・リーの逆を行いました)

では、もう少し細かい部分を説明します。

受講の仕組み

基本的に以下のように進みます。リモート受講が **26 週間**続きます。

【課題が届く】 → 【取り組む】 → 【解説講義が届く】 → 【取り組む】 → 繰り返し (26 週)

毎週 1 つの課題が届いた後、日本語の解説が届きます。原則としてこれらは同じ週に起きるので、「火曜に教材&土曜に解説」みたいなイメージです。これが **2020 年 7 月**から **12 月下旬**まで続きます。もし、途中で遅れが生じて、**26 週分**の提供が終わるまで続けます。

教材は 2 種類

教材は、①課題 (英語の記事: PDF ファイル) と②解説講義 (音声か動画) です。両方ともダウンロードが可能で、講義はストリーミングも可能です。

教材の語彙レベル

試験本番に出る記事の語彙レベルの範囲に収まります。ただし、「語彙レベルが最も高い記事」同士を比べると、試験本番の方がやや高いと思います。これは意図的です。なぜなら、この講座の目的は語彙力養成ではないからです。むしろ「単語を知っていても、ちゃんと読めないことがある」という現実に気づき、その上で、読解力を磨くことが目的です。

訳

全文訳は提供しません。理由は 2 つです。1 つ目は、知らない単語の意味を脳内に定着させるには、他人からポイっと与えられた訳を眺めるより、自分で調べる方が効果的だからです。(もし、全文訳が必要なら、グーグル翻訳を使ってください。コピー可能な文字データを提供するので簡単です)

2 つ目の理由は、この企画が英語リーディング講座だからです。記事の内容を楽しむことや議論することが目的ならば全文訳が役立ちますが、実際は、英語の記事の構成や論理、読み方を学ぶことと、試験に出そうな設問をガンガン解くことが中心なので全文訳は不要です。ただ、講義をする時にどうせ日本語を使うので、訳を無視するわけではありません。きれいに作られた全文訳は提供しないということであり、解説の中で必要に応じて訳を言います。

機材

パソコンでの受講を推奨しますが、スマホやタブレットでも可能ではあります。ただし、記事を読んだり書き込んだりするには絶対に紙が便利なので、印刷することをお勧めします。

1 回あたりの時間

課題に取り組む時間は **30 分~1 時間**を想定してください。講義も **30 分~1 時間**が 1 単位ですが、必要ならそれを **2 つ以上**送ります。課題を飛ばしていきなり解説を聞くのは推奨しません。それだと受け身となり、効果が小さくなるからです。自力で課題に取り組んでから解説を聞くと得をすると考えてください。

受講に必要な英語レベル

記事の読み方、論理を学び、実際に記事を読んで問題を解く練習をする講座ですから、現在の英語レベルが初級でも上級でも必ず多くを学んでいただけます。とは言え、基礎力がほぼゼロの人を想

定するわけではないので、TOEIC のリーディングセクションで 250 点以上を取ったことがあることを条件とします。(受験経験がない場合は、それに相当する力があれば OK です)

質問には個別に返信

受講期間中、教材や解説に関する質問を受け付けます。回数は無制限です。個別に答えた上で、他の受講者にも有益だと判断した場合は、後日、全体でシェアされる場合があります。

特典

受講者限定の特典は「Zoom を使ったオンラインセミナー」への参加です。受講者だけを対象に、月 1 回 (2 時間程度) 実施します。英語や論理の学び方、実生活への役立て方、個人的な英語学習体験などをテーマに話します。開催は月末近くの土曜か日曜で、最初は 7 月 26 日 (日) 20 時です。その次は 8 月 29 日 (土) 13 時の予定です。(セミナーは録画に成功したら後日共有されます)

受講料

課題 26 回 + 解説講義 26 回・回数制限のない質問権・特典のセミナー 6 回 (12 時間) を全て含め、受講料は 66,000 円 (税込) です。半年講座なので 1 日あたり約 360 円となります。

金銭的リスクはボクが負担します。すなわち、この講座を最後まで受講した後で、TOEIC を受験する際に「記事に対する苦手意識が薄れていない」とあなたが判断した場合は、受講料を全て返金します。これは、講座が提供するはずの価値を提供できなかったことの責任を取るためです。返金申請は、2021 年 2 月 1 日から 6 月 30 日 24 時までの間にメールで行っていただけます。申し込み後に届く自動返信への返信をください。本文には、返金申請の旨と受験月、講座の感想を率直に書いてくだされば結構です。この制度を悪用すれば、簡単に無料で受講できますが、この文書をここまで読んできた人の中には、そんな人はいないと信じています。

想定している受講者

この講座が想定しているのは、以下の条件を 1 つ以上満たす英語学習者です。

- ・ TOEIC に出る記事を得意にしたい or 苦手ではないと言えるようになりたい人
- ・ 記事に限らず長文問題を得意にしたい人
- ・ 英語の文章構成の基本を知らず、ただ単に読んでいる人
- ・ パート 6 の文選択問題とパート 7 の位置選択問題をミスする人
- ・ 論理的に話したり書いたりできるようになりたい人
- ・ 文脈を把握するリーディングができるようになりたい人
- ・ とにかくパート 7 の問題演習をたくさんやらされたい人
- ・ 好きな時間に好きな場所で英語の勉強や TOEIC 対策をしたい人
- ・ 問題作成者がパート 7 に仕込んでいるトリックを学びたい人
- ・ 自分に必要なのは速読より「正確な読み」だと気づいている人
- ・ 手元に残る教材を使って、何度も繰り返し勉強することを望む人

次に、パートナーのロスを紹介します。

アイテムライター（問題作成者）

今回の講座で使う記事をボクと一緒に作ったのはロス・タロックです。彼は、岡山の学芸館高校で英語を教えています。ボクがロスに問題作成を教えたのは約10年前で、それ以来、数多くの企画と一緒に仕事をしてきました。彼はネイティブスピーカーにしては珍しく、ETSが作った問題集を超マジメに研究しています。ですので、『至高の模試600問』や『究極の模試600問+』といった、クオリティの高さで評価される本を何冊も生み出しているのです。そのロスからメッセージが届きました。



From Ross Tulloch

Hiro asked me to write some article-based items as authentically as possible. I have created some extremely typical TOEIC items incorporating Hiro's very specific requirements regarding the kind of logic that is required to answer the questions. After extensive rewrites, we have managed to replicate all of the techniques that ETS uses to test your comprehension.

To make maximum use of each article, we have included some special question types. Each article has a question with multiple correct answers. These will train you to have a thorough understanding of the article and check each of the choices carefully. There are also a large number of sentence-location items designed to develop your understanding of the

logical connections between sentences and paragraphs.

Understanding that articles are the least interesting part of the test, I have done my best to make them more exciting by linking the stories together. While this is not something that happens in TOEIC, it does happen in the real world. You will recognize some situations, places, and people reappearing in the articles. I hope you will enjoy discovering all of the connections. You may also notice some articles and situations inspired by recent events.

We have worked hard to make these items as interesting as possible while packing them densely with authentic question types designed to improve your score on the TOEIC.

これは224ワードで、講座で使う記事の長さは100~300ワードです。従って、この長さが平均に近いです。では、次は自己紹介です。

講師はボクです。（ヒロ前田）

高知生まれの関西育ちです。おもに執筆業と講師業をして生きています。TOEIC受験回数は120回以上で、47都道府県で公開テストを受験済みです。取得スコアは15点から990点まで。大学時代に英語ディベートに没頭し、全国大会で3位になったことがあります。こんな生き方なので、英語とTOEICと論理を教えることに生き甲斐と充実感を覚えます。ですから、それら3つの要素が詰まったArticle Master Classがボクにとって最高に楽しい講座になることは間違いありません。一緒に学びたい方に画面上でお会いできるのを楽しみにしています。



最後に概要をまとめておきます。

Article Master Class

日時：2020年7月～12月 半年間（26週）

料金：66,000円（税込）

講師：ヒロ前田（問題作成：ロス・タロック）

教材：オリジナル英文記事、解説講義（音声・動画）

受講レベル：TOEICリーディングセクションが250点以上

機材：パソコン推奨／スマホ・タブレット可／印刷推奨

質問：無制限で可能

特典：オンラインセミナー 2時間×6回

人数制限

遠隔授業なので定員を設ける必要はないと思っていましたが、質問への個別対応が発生することを考えて、70人でストップします。ですので、募集が急に終わる可能性があります。

申込方法

Web ページにあるボタンをクリックしてください。

最後に・・・

12年前に起業して以来、ボクは自分がやりたい企画を自分で作り、実行することで生きてきました。その中心はコンテンツ制作とセミナーです。この2つが好きなことであり、得意なことだからです。

これまで、英語学習の領域と論理の領域でそれらを具現化してきました。一部の人は知っている通り、ボクは論理をテーマにしたセミナーを10年くらい毎年やっていますし、2018年には東京と大阪でパート7の解法を、論理の観点から解説しました。下にあるのは、その時いただいた声です。

論理を基にした Part 7 の解き方、考え方、とらえ方が斬新でした。(古川さん)

Part 7 の読解に「論理」のアプローチを取り入れた説明は本当に面白かった。TOEIC の解法を絶えず研究されているということがよく分かった。(yoshi さん)

三角ロジックは知っていたが、それがどのように英語で使われているかをよく理解できた。(はるさん)

文章の構造がよくわかった。今後、論理的に読めると思う。(しょこたんさん)

今でも、ボクは本や動画を使って論理の勉強を続けています。と同時に、英語学習者が理解しやすいように論理の教え方を学んだり開発したりしていて、これがまた楽しいと感じます。

楽しいですが、自己満足のためだけに行動しているつもりはなく、人々の人生に役立つよう生きていくつもりです。最近、それを実感する出来事がありました。福岡県の河島沙里さんから下のメールをいただきました。彼女はメルマガ読者で、福岡で開かれた論理をテーマにしたセミナーに参加した方です。

ヒロ前田先生

大変ご無沙汰しています。以前福岡で開催された論理の授業を受けて、その後会社の論文大会で賞を貰ったと報告した者です。何と今回また別のテーマで賞を獲りました。会社の論文大会に2回出るのも前代未聞ですが、2回とも受賞することも前代未聞です。今回も応募総数2000から、20くらい選ばれただけなので、すごいと思います。

前田先生の論理はどんなテーマでも再現可能で無敵だと思い、ご連絡致しました。テキストもその時のメモも大切にっています。人生変わりました。ありがとうございました。

他にも何通かメールをいただき、こんな声も届いています。

- ・ 業界紙にもお声がけいただき、技術論文を書くことになったのですが、つるつる〜と書けました。
- ・ 急なテレワークで在宅でもチャットもメールも論理で乗り切れています。
- ・ 論理は万能で最強のツールです！
- ・ 雨の日に受けたセミナー、もう10年前なのですね。10年前の私に最強で無双のツールを授けてくださって、ありがとうございました！
- ・ 私の他にも、劇的に人生が変わる方がいらっしゃいますように！

今回の講座を通じて、「劇的に」かどうかは分かりませんが、あなたの人生に少しでも良い変化をもたらすことができるよう努力することを約束します。

この講座は、いわゆるオンデマンド授業です。ボクは「家に来ない家庭教師」になりますが、良い結果を出すには、あなたの積極的な独学が最重要です。例えば、「次回までにコレをやってください」みたいな指示をボクが出したら、必ず取り組んでください。リアルタイム授業と違い、「忙しい」とか「時間がなかった」という言い訳が成立しないのがオンデマンド授業です。ですから、自らを厳しく監視しながら受講してくださいね。それが大きな成果を生むはずですよ。

では、これで終わります。受講していただける場合は、このファイルを開いたWebページにある申込ボタンをクリックしてください。受講しない場合も、ボクが紹介した5つの記事対策を、少しずついいので、ぜひ試してください。応援しています。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

前田